

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

資料3

令和4年(2022年)3月24日
市立札幌開成中等教育学校

1 本年度の重点目標

課題探究的な学習に向き合う環境を整える

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	国際バカロレア(IB)が示す10の学習者像を意識した日常に努め、MYP(Middle Years Programme)およびDP(Diploma Programme)認定校の実現を目指し取り組むことができたか。	A	MYP・DP認定校として、国際バカロレア機構(IBO)と連携し教育活動を推進している。MYP認定5年目となる本年度はIBOによる外部評価が行われ、認定校として一定の評価と課題が示された。今後は、IBが示す学習者の姿「10の学習者像」と札幌市が掲げる「自立した札幌人」の融合を図り、生徒が学習の振り返りを通してアイデンティティを確立する機会をさらに設定することで課題解決を図っていく。	A	A
	SSHの取組を通して、教育課程の充実を図ることができたか。	A	今年度はコロナ禍でも可能な取組として、日帰りでの道内研修や大学での実習を実施することができ、併せて課題研究の校外での発表機会を多く設定することができた。また、科学的素養の育成に関する評価では、資質や興味の向上が成果として表れ、指定2期目(計10年)の最終年度を終えることができた。	A	A
	重点目標の内容は、学校や生徒の実態を踏まえた適切な設定となっているか。	A	本校では、課題探究的な学習に向き合う環境を整えることを重点目標とし、IBおよびSSHのフレームを活用している。IBでは多様な文化の理解と尊重の精神を、SSHでは科学的素養の育成と持続可能な世界・地域を創造するカリキュラムを開発している。そのため、地域、高大、産学の連携を強化し多数の支援者を得ている。生徒の研修への意識は高く、今後もこの状況を維持していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	今年度は、国際バカロレア機構によるMYP(Middle Years Programme)評価訪問の年(5年に1度)ということもあり、学校は忙しい日々だったと推察します。評価の結果において、MYPプログラムが適切に実践されていると評価されたことは日々の取組の賜物と感じております。次年度以降も、生徒や保護者を巻き込み充実したプログラムを実践してほしいと思います。また、IBの目指す生徒・大人の姿「10の学習者像」の深い理解と実現を期待しています。				
教育課程・学習指導	【課題探究】「なぜ、どうして」を大切にしたい、生徒自身が学びの主人公となる「課題探究的な学習」を充実することができたか。	A	コロナ禍において、グループ活動の制限など学習環境の制約があったが、各教科の工夫によって課題探究をベースとした指導が進められた。今後は各教科での学習方法や課題設定、概念とのかかわりなどについて交流を深め、生徒の学びがより深まるよう引き続き授業改善を進めていく。	A	A
	【専門性】理数英の専門学科の特色を生かした教育課程を編成することができたか。	A	SSHの学びの集大成であるコスモサイエンスの取組について、実験・実証の方法など、必要な知識やスキルを身に付けることができる教育課程の編成に努めた。また、研究成果報告会ではオンラインによる発表を併用しつつ、英語でのプレゼンテーションも行うなど多彩な手法とアイデアで、より多くの生徒が参加できる実施方法を整えることができた。	A	A
	【バランス】知徳体のバランスがとれた教育課程となっているか。	A	引き続き、道徳・総合的な学習(探究)の時間、特別活動の横断的カリキュラムである「こころからたの時間」を効果的に設定するとともに、自らの健康維持や体力向上に生徒が主体的に取り組む工夫に努めた。道徳は各学年の担当者を中心に運営が進められ、指導の方法や状況に応じた内容の工夫など、きめ細かな対応ができた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	コロナ禍において様々な活動が制限される中、生徒達は探究の成果をオンラインで発信するなど積極的な姿勢は評価できます。今後は、姉妹校(タイ、ベトナム、中国)など海外の仲間とも交流できる環境をさらに充実させ、グローバルで多様性を受け入れる体制が整うよう期待しています。「こころからたの時間」は、生徒の発達段階を考慮し適切な内容となっています。				
生徒指導・教育相談	【育てたい生徒像】生徒がTPOに応じたふさわしい対応ができるように支援することができたか。	A	引き続き、教職員の生徒支援に対する共通理解を研修で深め、TPOに応じた振舞いの大切さを伝えるとともに、生徒に自らの行動を考える機会を与えていく。また、SELF(本校の主体性育成プログラム)の理念をもとに、成長段階を踏まえた望ましい生徒の姿を教職員で共有し、支援していけるよう研修を充実させていく。	A	A
	【異年齢交流】学校行事や生徒会活動を通して幅広い異年齢の交流を図り、生徒の自主性や協調性を育むことができたか。	A	コロナ禍で異年齢交流の場を設けることができない状況を打開するために、感染症対策を講じ体育的行事を実施できたことは成果であった。またiPadなどのICT機器を活用しライブ配信できたことも効果的であった。今後はデバイスの活用方法の工夫によりさらなる改善ができると考える。来年度は学校祭(開成week)の実施に向けて試行錯誤していく。	A	A
	【教育相談】教育相談の充実を図ることができたか。	A	日課に、担任と生徒が教育相談をできる時間を確保したことについて一定の効果を得ることができた。また、学校適応アンケート調査(生徒対象)の結果を支援につなげた事例があり、客観的な分析結果の重要性を改めて認識した。今後も学校適応アンケート調査や学びの基礎診断の内容を踏まえ生徒支援研修会を充実させていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	IBのプログラムにあるボランティア活動を中心とした生徒の社会的な自立を促進するための実践は評価ができます。また、生徒支援研修会を定期的に開催するなど学校全体としての教育相談体制も確立されており今後も継続していただきたいです。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
(キャリア探究教育)	【主体的な取組】生徒が自らの生き方を主体的に考え将来を切り拓く力を養うことができるよう、進路探究の充実を図ることができたか。	A	生徒が主体的に考え、自分のため、社会のために動くことができる機会を提供するため、「Future Job Session(未来志向型進路探究学習)」や「Cozモサイエンスプロセス(課題探究活動)」などのプログラム開発を継続していく。	A	A
	【自己理解】体験活動を通して自分を知り、自立を目指すことができるような取組ができたか。	A	職場体験活動をCSR活動(企業の社会貢献活動)に特化した取組に発展させ、社会の中で自分らしく生きていくために必要な職業観・勤労観を身に付けることができるプログラムを構築していく。	A	A
	【社会とのつながり】変化の激しい変わりゆく社会で自らどういう役割を果たせるかを生徒自身が意識できるような取組ができたか。	A	「SA(奉仕活動)・CAS(創造・行動・奉仕)」を発達段階に応じて校内から校外へ発展させる中で、校内のニーズ、社会のニーズを探究する経験を積み、社会の中で自分が果たす役割を考えるプロセスを作っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	キャリア教育の推進は、生徒の自己実現につながるものであり、学校が体験活動、職場体験、ボランティア活動を重視していることは高い教育効果につながっていると思います。今後も学校内外で地域や社会とのつながりを大切にしたい多様な取組を推進していただきたいです。				
保健・安全管理	【見守り体制】生徒の安全・安心・快適さを維持する環境を整えることができたか。	A	コロナ禍での学校生活及び授業形態に関しては、市教委の指示を遵守し、換気・消毒に努めた。生徒の見守りは、生徒理解に関する研修会を定期的に行い、支援の方法を共有する体制を構築した。また、清掃活動やIBが推進する日常的な貢献活動を通して、生徒は相互に安全・安心な環境を作り上げる意識が高まっている。	A	A
学校関係者評価委員による意見	グループワークが制限される中、適切な衛生管理をおこない、授業の展開を工夫できたことは評価できます。引き続き、配慮が必要な生徒の見守り体制の維持に努めていただきたいです。				
組織運営	全教職員が連携し、分掌業務を円滑に推進できたか。	B	昨年度より組織間連携について課題が挙げられている。今年度は、分掌業務(IBスタッフ・教務・キャリア支援・生徒支援・総務・事務部)と各期業務(基礎期・充実期・発展期)の連携を担当する「サブジョブ」の機能を高め協働の流れを可視化した。業務推進の部分で改善の余地がある。より良い方向性を目指し業務フローの改善とサブジョブ機能の見直しを図っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	組織運営には限りない課題があると思いますが、分掌業務と各期業務の機能を高め協働の流れを構築してください。また、業務の再構築は労力と時間がかかりますが、教育効果を向上させるためにも確実に推進していただきたいです。				
研修	生徒・保護者・教職員が課題探究的な学習を行うための環境整備を推進することができたか。	A	コロナ禍での校内における授業環境整備を、各分掌・学年と連携して推進することができた。ICTの活用も担当部署と連携をし、突発的な休校に対しても対応できるような環境が整った。今後は、よりICTを活用したハイブリッドな探究的な学習を推進していく。	A	A
	研修等で得たIBプログラムやSSH等の情報を保護者・教職員間で共有することができたか。	A	昨年度の反省を踏まえ、積極的にICTを活用しIBに関わる様々な資料提供を行うことで、十分な研修時間を確保することができた。今後はより地域や保護者がIBの学習や理念の理解を深められるようホームページや通信等の発行を積極的に行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	IBの教育プログラムやSSH等の取組について、ICTデバイスを活用し資料提供や研修を行っていることは評価できます。教育内容の充実と併せて活用のスキルの更なる向上に努めていただくよう期待します。				
保護者・地域情報等との連携	入学を考えている児童に対し、必要な情報を適宜発信することができたか。	A	今年度の学校説明会は、昨年度に引き続き感染症対策を講じた内容となった。第1回(7月)はパンフレットを、第2回(9月)は募集要項を本校駐車場で配布した。授業公開及び校舎見学ができなかったため、ホームページに動画を掲載し本校の様子を提供することができた。	A	A
	学校だよりやホームページ、懇談会などを通して、学校の様子がよく分かるように伝えているか。	A	今年度も継続してホームページの充実に取り組んでおり、保護者からは一定の評価をいただいた。学校公開日(授業公開・懇談会)は例年の半分に満たない全3回の実施となったが、PT会公開講座(進路・IBカフェ・講演会)はすべて実施することができた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	ここ2年間、入試広報を中心とした学校公開ができていない点については、これからのあり方を探るとともに、ホームページの質をさらに向上させていただきたいです。また、在校生の保護者への情報提供については学校公開日の実施形態を工夫しながら双方向のやり取りを実現してほしいと思います。				
教育環境の整備	タブレット端末や他のICT機器は、課題探究的な学習を行う上で効果的に活用されているか。	A	従来からのタブレット端末、今年度から導入のGiGAスクール端末を安定して活用できる環境を整備した。Chromebook貸与に伴い、セキュリティや利用に関するガイドラインの更新を行った。利活用に関する通信を発行したことで、生徒は端末を自己管理できるスキルが身に付いてきている。	A	A
学校関係者評価委員による意見	探究活動に必要なアンケート収集の場面やクラウドストレージを利用している学校・家庭間の学習連携など、あらゆる場面において効果的な活用が図られています。同時に、基礎期の段階からセキュリティーポリシーを遵守した適切な指導を行っていることも評価できます。今後もより一層の活用の工夫が図られることを期待しています。				